検証まとめ

（ゆうゆう館再編に係る作業部会）

ゆうゆう館再編について

ア　これまでの再編の取組

①　変遷

区では、60 歳以上の高齢者のレクリエーションや趣味活動の「憩いの場」として、昭和 38 年の上荻窪敬老会館を皮切りに、32 館を整備してきた。当時は、いきいきクラブなどの団体利用を中心に、入浴利用や健康体操、三療サービスなどの個人利用が行われていたが、貸し施設的な運営が中心であり、魅力ある事業メニューが少ないことから、65 歳未満の世代や新規の利用者が伸び悩んでおり、高齢者の価値観の多様化や生活様式の変化など、高齢者を取り巻く環境の変化に十分対応できていない状況にあった。

そのため、平成 17 年３月に、学識経験者や利用団体代表、運営事業者や区民代表等で構成する「新たな時代の敬老会館のあり方検討会」を設置し、施設の役割・機能の抜本的な見直しが必要との基本認識に立って議論・検討を行うこととした。

その結果、今後目指すべき方向性として、施設の機能・役割は、従来の「憩いの場」に加え、「いきがい学びの場」、「ふれあい交流の場」、「健康づくりの場」と４つに拡大するとともに、「通年開館の導入」や「開館時間の拡大」などの弾力的運営を図ること、魅力的な事業の実施に向けて、NPO 法人等との協働による施設運営を目指すことのほか、条例上の名称変更をすべきことなどを主な内容とする報告書が平成 17 年９月に取りまとめられ、以降、その方向性に沿った見直しを計画的に進め、現在に至っている。

②　ゆうゆう館が抱える課題とその対応

上記の報告書を踏まえ、平成 18 年度から敬老会館を「ゆうゆう館」と名称変更するとともに、「通年開館の導入」や「開館時間の拡大」、運営事業者の創意工夫による協働事業など、４つの機能に応じた各種の事業を NPO 等との協働により展開してきた結果、それまで約 25 万人程度だった利用者数は、平成 25 年度には約 45.9 万人を数えるとともに、協働事業の参加などを通じて、60 歳未満の利用者数も増加した（資料編「ゆうゆう館関係 基礎データ」Ｐ１　１①利用者数の推移（平成 11 年度～令和４年度、１②年齢別利用割合　参照）。また、各施設の運営状況についても、毎年度行っているモニタリングなどを通じて、多くの高齢者に居場所としての機能を適切に提供していることを確認している。

その一方でゆうゆう館は、高齢者専用施設としての特性から夜間の利用率は最も利用の多い洋室でも全ゆうゆう館平均 29.7％（令和４年度）と低く、施設の有効活用を図る観点からさらなる工夫が必要である（資料編「ゆうゆう館関係 基礎データ」Ｐ３　１③主な部屋別稼働率、１④夜間使用枠数・稼働率　参照）。また、ゆうゆう館の多くは、昭和 40 年代に建築され、築 50 年以上の施設が９館（令和５年８月現在）あり、老朽化への対応も課題となっている。

さらに、今後の更なる高齢化の進展を見据え、地域共生社会の実現に向けて、世代を超えて地域の人が交流し、つながりを作るための場を確保することは重要である。

こうしたことから、区立施設再編整備計画において、今後のゆうゆう館は、従来の高齢者専用施設ではなく、区民集会所、区民会館、機能移転後の児童館施設とともに、新たなコミュニティ施設である「コミュニティふらっと」に段階的に機能継承することとし、この間、区立施設再編整備計画に基づく取組を進めてきたところである。

③　これまでの再編の取組の実績

これまで４館のゆうゆう館を、コミュニティふらっとへ再編（機能継承）を行った。

再編したゆうゆう館	機能継承先	開設年月	備考
ゆうゆう阿佐谷館	コミュニティふらっと阿佐谷	令和３年１月	同じ場所で 機能継承
ゆうゆう阿佐谷北館	コミュニティふらっと東原	令和３年１月	
ゆうゆう馬橋館	コミュニティふらっと馬橋	令和３年１月	同じ場所で 機能継承
ゆうゆう浜田山館	コミュニティふらっと成田	令和４年４月	

④　これまでの取組で見えてきた課題と区民等から寄せられた意見等

この間取り組んできた、ゆうゆう館再編の取組から見えた課題として、

〇ゆうゆう館からコミュニティふらっとに機能継承を行うに当たり、これまで行っていた活動を止めてしまう高齢者団体が一定数存在する。

〇ゆうゆう館は保育園や児童館との併設施設が多く、保育施設の設置基準の変更や、学童クラブの需要増などの兼ね合いで現在地では場所の確保が難しく、コミュニティふらっとに機能継承するに当たり、活動場所を移転する必要が生じる。などがある。

また、区民等からの主な意見として、

〇再編により活動場所が移転して遠くなり、活動ができなくなる。

〇再編を実施するに当たり、事前に利用者に対して説明が少なく必要な情報が届いていない。

〇コミュニティふらっとに移行して、今まで通り活動できるか不安である、などがある。

これらの課題や区民等からの声を踏まえ、ゆうゆう館再編とコミュニティふらっとへの機能継承に関するこれまでの取組の検証を行うこととしたものである。

イ　検証の視点

これまでのゆうゆう館再編の取組について検証するに当たり、以下のとおり検証項目及び視点等を設定した。

検証項目	視点	目的
1　ゆうゆう館の再編整備の必要性	1　利用者から見たゆうゆう館はどのようなものか	現在のゆうゆう館のハード面やソフト面、多世代交流等に関する意見を把握し、これまでの再編整備の必要性を検証する。
	2　利用者以外から見たゆうゆう館はどのようなものか	高齢者を対象とした無作為抽出アンケート等を行い、高齢者の活動状況や、区立施設の利用に対する意見を把握し、ゆうゆう館を含めた地域の中の高齢者の居場所について検証する。
	3　協働事業が高齢者にとってどのようなものか	協働事業者が実施した事業内容や利用者アンケートにより、満足度を確認することで、協働事業が高齢者にとってどのような役割を果たしているか検証する。
	4　これまでの再編整備の進め方はどうだったのか	これまで進めてきたゆうゆう館の再編整備の進め方について検証する。
2　ゆうゆう館の機能がコミュニティふらっとに継承されているか	1　ゆうゆう館で行っていた活動が引き続き行えているか	高齢者団体のアンケート結果や利用状況を確認し、ゆうゆう館で行っていたこれまでの活動が、コミュニティふらっとにおいて引き続き行えているか検証する。また、コミュニティふらっとに移行しなかった団体についても移行しなかった要因について検証する。

また、必要な情報を収集するため、下記のとおり、アンケートや意見交換会を実施した。

＜アンケート＞

アンケート名称	実施期間	対　象	回答者数
コミュニティふらっと利用者アンケート（高齢者団体）	令和５年３月８日～31 日	コミュニティふらっと利用者のうち、コミュニティふらっとを利用する前にゆうゆう館を利用していた高齢者団体の所属者	289 名
コミュニティふらっとへ移行しなかった団体へのアンケート	令和５年３月８日～31 日	ゆうゆう館からコミュニティふらっとに移行しなかった団体の代表者（27 団体）	17 名
ゆうゆう館利用者アンケート	令和５年３月 10 日～４月 10 日	ゆうゆう館利用者（25 館）	864 名
高齢者の区立施設の利用に関するアンケート	令和５年６月８日～６月 29 日	無作為抽出した 60 歳以上の区民 1,400 名	462 名

＜意見交換会＞

名称	実施場所	実施日	対　象	参加者数
「(仮称) コミュニティふらっと高井戸西」の整備に向けた取組の一旦休止に関する説明及び意見交換会	ゆうゆう高井戸西館 洋室	令和４年 12 月 23 日	ゆうゆう高井戸西館 利用者（高齢者団体）	15 名
ゆうゆう館協働事業者（運営委託法人）意見交換会	区役所本庁舎 西棟６階 第５・６会議室	令和５年 １月 18 日	ゆうゆう館協働事業者（運営委託法人）	18 名
ゆうゆう館運営委託法人の従事者意見交換会	区役所本庁舎 中棟５階 第３・４委員会室	令和５年 １月 19 日	ゆうゆう館受付業務従事者	37 名
「(仮称) コミュニティふらっと上荻窪」の整備に向けた取組の一旦休止に関する説明及び意見交換会	ゆうゆう上荻窪館 洋室	令和５年 １月 26 日	ゆうゆう上荻窪館 利用者（高齢者団体）	18 名
「(仮称) コミュニティふらっと浜田山」の整備に向けた取組の一旦休止に関する説明及び意見交換会	ゆうゆう高井戸東館 洋室	令和５年 １月 29 日	ゆうゆう高井戸東館 利用者（高齢者団体）	26 名
「(仮称) コミュニティふらっと上荻窪」の整備に向けた取組の一旦休止に関する説明及び意見交換会	ゆうゆう西荻北館 洋室	令和５年 １月 31 日	ゆうゆう西荻北館 利用者（高齢者団体）	25 名
ゆうゆう館利用者（ゆうゆう和田館）意見交換会	ゆうゆう和田館 洋室	令和５年 ７月 21 日	ゆうゆう和田館 利用者（高齢者団体）	13 名
ゆうゆう館利用者（ゆうゆう四宮館）意見交換会	ゆうゆう四宮館 洋室	令和５年 ７月 31 日	ゆうゆう四宮館 利用者（高齢者団体）	10 名

ウ　情報の整理・分析

ゆうゆう館やコミュニティふらっとの利用情報などの基礎データや、アンケート・意見交換会の結果を整理・分析した結果は以下のとおりである。

検証項目１　ゆうゆう館の再編整備の必要性

視点１　利用者から見たゆうゆう館はどのようなものか

○ゆうゆう館の利用状況を見ると、75～79 歳、及び 80～84 歳の利用が多く、全体の約半数を占めている（資料編「ゆうゆう館関係 基礎データ」Ｐ２　１②年齢別利用割合　参照）。

○ゆうゆう館利用者アンケート結果の自由意見や、ゆうゆう館利用者の意見交換会での意見から、ゆうゆう館の受付の方（従事者）はとてもよくやっている、何回同じことを聞いても親切に応えてくれるなど、運営事業者への評価は全体的に高く、コミュニティふらっとでもゆうゆう館と同じように対応してほしいという意見もあった。

○ゆうゆう館利用者アンケートの結果（問３、問５、問７）から、これまで進めてきた、「区立施設再編整備計画」の目的については、「賛成」「どちらかと言えば賛成」の合計が 67.2%（「反対」「どちらかと言えば反対」の合計は 11.1%）、ゆうゆう館や区民集会所等をコミュニティふらっとへ再編していく取組については、賛成 43.1%（反対 22.5%）と、ともに賛成の方が多く、基本的な考え方については一定の理解が得られている。一方で、高齢者が利用する施設について、高齢者専用（単独）施設が良いか、多世代が利用する施設が良いかについては、ゆうゆう館利用者からは、「高齢者専用（単独）施設」や「どちらかといえば高齢者専用（単独）施設ないし優先施設がよい」という回答が合わせて 53.2%と高かった。

○ゆうゆう館利用者の意見交換会においても、上記アンケート結果と同様に、高齢者が利用する施設については、ゆうゆう館と同じように利用できるのであれば、多世代型施設を否定するものではないという意見がある一方で、ゆうゆう館への愛着や、高齢者のみが来館し、優先的に使用できることが利点であるなど、様々な意見があった。

○もし、移転する場合は、できるだけ近い場所にとの意見が多く、活動場所が変わる場合は、移転先は現在利用しているゆうゆう館から「徒歩５分以内」「徒歩 10 分以内」の回答が、ゆうゆう館利用者のアンケートの結果（問 11）では 67.9%、コミュニティふらっとへ移行しなかった団体のアンケートの結果（問６）では 75.0%となっている。一方で、ゆうゆう館利用者との意見交換会では、移転により近くなる人もいれば遠くなる人もいるので一概に言えないとの意見もあり、活動場所が変わることについては様々な意見があった。また、同じ場所で建て替える場合でも、休館中の活動場所に配慮してほしいとの意見もあった。

視点２　利用者以外から見たゆうゆう館はどのようのものか

○高齢者の区立施設の利用に関するアンケートの結果（問３、問４、問５、問６）から、現在の 60 歳以上の高齢者の健康状態は、全体の 84.4%が「とてもよい」「まあよい」と回答している。また、65 歳未満の 77.5%の人が、65～69 歳でも 47.7%の人が何らかの形で就労している。また、高齢者が行っている活動としては、スポーツ・運動や趣味活

動が多く、年代によりばらつきはあるが、85 歳未満の層の約半数の人が活動をしており、85 歳以上についても一定割合活動している。また、区立施設の利用状況は、ゆうゆう館は約 16.5%、コミュニティふらっとは 3.1%となっており、区立施設全体でも 49.9%に止まっている。

○区立施設を利用しない理由としては、「日常が忙しく、趣味等の活動ができない」が最も多く、「施設までのアクセスの悪さ」や、「施設の存在を知らない」「施設の使い方が分からない」などの回答のほか、スポーツジムなどの「民間施設を利用している」という回答もあった。

【年齢別就労、スポーツ・運動、趣味活動の状況】

年齢	就労状況		スポーツ・運動		趣味活動	
	働いている	働いていない	行っている	行っていない	行っている	行っていない
60～64	69(77.5%)	20(22.5%)	44(50.6%)	43(49.4%)	42(48.8%)	44(51.2%)
65～69	31(47.7%)	34(52.3%)	28(44.4%)	35(55.6%)	21(34.4%)	40(65.6%)
70～74	32(36.3%)	56(63.7%)	37(44.0%)	47(56.0%)	43(52.4%)	39(47.6%)
75～79	24(25.5%)	70(74.5%)	44(52.3%)	40(47.7%)	39(48.1%)	42(51.9%)
80～84	14(21.8%)	50(78.2%)	24(46.2%)	28(53.8%)	31(57.4%)	23(42.6%)
85～89	2(7.4%)	25(92.6%)	7(31.8%)	15(68.2%)	9(37.5%)	15(62.5%)
90～	0(0.0%)	17(100.0%)	3(21.4%)	11(78.6%)	7(43.8%)	9(56.2%)
合計	172(38.7%)	272(61.3%)	187(46.1%)	219(53.9%)	192(47.5%)	212(52.5%)

※「高齢者の区立施設の利用に関するアンケート」より活動状況と年齢でクロス集計

○高齢者の区立施設利用に関するアンケートの結果（問 11、問 12）から、これまで進めてきた、「区立施設再編整備計画」の目的、及びゆうゆう館をコミュニティふらっとへ再編していく取組については、「賛成」「どちらかと言えば賛成」の合計が、それぞれ 78.9%、65.4%と、肯定的な割合が高く、また、高齢者が利用する施設について、高齢者専用（単独）施設が良いか、多世代が利用する施設が良いかについては、「多世代が利用できる施設が良い」「どちらかといえば多世代が利用できる施設が良い」が合わせて 60.5%と高かった。高齢者全体としては、ゆうゆう館以外の区立施設や民間施設の利用者も多いことから、既に多世代で施設を利用していることも要因と考える。

○一方で、「高齢者の区立施設の利用に関するアンケート」の結果（問 10）では、施設再編整備計画による、ゆうゆう館のコミュニティふらっとへの機能継承の取組を知らない人も 80%を超えている状況である。

視点３　協働事業が高齢者にとってどのようなものか

○協働事業は、令和４年度の実績では、全館合計で 8,914 回実施し、参加者は 79,595 人となっており、60 歳未満の方の参加も全体の 8.5%を占めている（資料編「ゆうゆう館関係 基礎データ」Ｐ３　２①協働事業実施回数及び参加人数、②協働事業年齢別参加割合　参照）。

○ゆうゆう館では、協働事業実施事業者により、高齢者の「いきがい学び」「ふれあい交流」「健康づくり」の目的に沿った協働事業を実施している。内容も、「いきがい学び」では、スマホ講座や語学教室、「ふれあい交流」では、多世代交流を意識した映画上映会や多世代が参加する食事会、「健康づくり」では、健康体操やヨガなど、参加者のニーズなどを聞き取りながら、多種多様な事業を展開している（資料編「ゆうゆう館関係 基礎データ」Ｐ４　２③　協働事業の事業分野別実施状況（令和４年度）　参照）。

○協働事業の実施にあたっては、年齢制限を設けず、夜間枠の活用などを図り、協働事業の内容・講師についても、町会・自治会や学校、ケア２４など地域のネットワークを活用するなど、地域コミュニティの形成にも寄与している。

○ゆうゆう館の協働事業について、実施後、参加者アンケートを実施しているが、各館の平均を見ると 97.2%の人が満足と回答しており、利用者のニーズに合わせた事業展開がなされている（資料編「ゆうゆう館関係 基礎データ」Ｐ３　２④　協働事業参加者アンケート結果　参照）。

○ゆうゆう館利用者アンケートの結果（問 12）から、ゆうゆう館利用者の 82.5%が、現在、ゆうゆう館で行っている協働事業と同様に、コミュニティふらっとにおいても高齢者を主な対象とした事業の実施を「望んでいる」「どちらかといえば望んでいる」と回答している。

視点４　これまでの再編整備の進め方はどうだったのか

○ゆうゆう館利用者アンケートの結果（問４）から、ゆうゆう館をコミュニティふらっとへ段階的に再編整備することについて、「あまり知らなかった」「全く知らなかった」が、合わせて 55.4%で、「よく知っていた」「なんとなく知っていた」を合わせた 44.5%を上回っている。

○コミュニティふらっとに移行しなかった団体の代表者へのアンケートの結果（問 10）から、パブリックコメントや説明会等を通じて区が行ってきた、ゆうゆう館等の再編についての利用者の意見を伺う取組について、61.6%の人が「不十分」、「やや不十分」と回答し、「十分に行われた」「ある程度行われた」の 23.1%を大きく上回った。

○コミュニティふらっとの整備に向けた取組を一旦休止したゆうゆう館利用者との意見交換会では、ゆうゆう館の再編整備の取組について聞いていた人もいる一方、自分が利用している施設の再編整備は知っていたが、区全体で取り組んでいることは知らなかったという声があった。また、情報提供の頻度を高くしてほしい、計画が決定した段階でなく、検討の段階や計画の立案の段階から意見を聞いて欲しいという声も複数あった。

○ゆうゆう館利用者意見交換会（２館）は、再編計画対象となっていない館で実施したが、施設の老朽化や、保育園など併設施設があることによる建て替えの課題などを示したうえで意見交換を行ったところ、計画が決まっていない段階でこのような意見交換ができて良かったなどの肯定的な意見が多かった。

検証項目２　ゆうゆう館の機能がコミュニティふらっとに継承されているか

視点１　ゆうゆう館で行っていた活動が引き続き行えているか

○高齢者団体登録数は、コミュニティふらっと５施設合計で 162 団体である（令和５年度上半期時点）。コミュニティふらっと永福を除く４施設が、近隣、または同施設のゆうゆう館を機能継承しており、ゆうゆう館の時に登録していた高齢者団体の 85.7%が、引き続き機能継承先のコミュニティふらっとで活動している（資料編「ゆうゆう館関係基礎データ」Ｐ４　３　ゆうゆう館からコミュニティふらっとへの高齢者団体の移行状況　参照）。

○令和４年度の高齢者団体の利用回数は、コミュニティふらっと５施設合計で 5,606 回であり、コミュニティふらっとの全利用数（高齢者団体が使用していない時間貸しの部屋を除く。）のうち約 34%を占めている。

○コミュニティふらっと利用者（高齢者団体）アンケートの結果（問 18、問 19）では、コミュニティふらっとへ移行する前の不安として、「同じ頻度で活動できるのか」「同じ内容で活動できるのか」「今まで通り気軽に利用できるか」の割合が高かった。一方で、コミュニティふらっとへ移行後、実際に利用した際の認識では、「同じ頻度で活動できた」「同じ内容で活動できた」「気軽に利用できる施設だった」の割合が高く、実際に利用することにより、不安がある程度解消されていることが分かった。

○コミュニティふらっと利用者アンケートの結果（問 21）では、コミュニティふらっとは、ゆうゆう館の機能・役割を継承する施設として整備しているが、ゆうゆう館の４つの機能・役割（「憩いの場」「生きがい学びの場」「ふれあい交流の場」「健康づくりの場」）について機能継承されているかを尋ねた質問では、いずれの機能・役割についても、「機能継承されている」、「どちらかといえば機能継承されている」と回答した割合が概ね７割程度であり、４つの機能・役割が継承されていると回答した方が多かった。

○一方、「ゆうゆう館では自宅に帰ったような温かい対応だったが、コミュニティふらっとでは事務的で雰囲気が違うと感じる」、「施設の運営の仕方が変わり、慣れるのに時間がかかる」、「ラウンジの居心地が悪い」、「ゆうゆう館と比べ、利用の手続きが煩雑になった」など様々な意見がある。

○コミュニティふらっとへ移行しなかった団体へのアンケートの結果（問３）では、コミュニティふらっとに活動場所を移行しなかった理由として、「コミュニティふらっとが利用していたゆうゆう館より遠くなった」「団体のメンバーの高齢化等により、このまま活動することが難しくなったので、これを機会に活動をやめた」という回答が多かった。特に、「コミュニティふらっとが利用していたゆうゆう館より遠くなった」と回答した６団体のうち５団体がゆうゆう浜田山館利用者であった。また、同アンケートの結果（問４）から、現在の活動状況については、40.0%が解散して活動していないと答えている一方、他のゆうゆう館や集会施設を利用しているケースも 33.3%あった。

エ　検証結果

アンケート結果や意見交換会での意見の整理・分析結果を踏まえて、得られた検証結果は以下のとおりである。

検証項目１　ゆうゆう館の再編整備の必要性

視点１　利用者から見たゆうゆう館はどのようなものか

○ゆうゆう館では、高齢者に寄り添った対応を行っていることなどから、利用者からの運営事業者への評価は全体的に高く、この点はコミュニティふらっとでも同様の対応が望まれている。

○これまで進めてきた施設再編整備計画の目的や、ゆうゆう館のコミュニティふらっとへ機能継承する取組については一定の理解が得られているものの、このような取組を知らない人も多く、周知や説明を行うことの重要性が改めて確認できた。

○高齢者が利用する施設は、多世代型施設が良いという意見がある一方、ゆうゆう館への愛着や高齢者だけで気軽に利用できるなどの理由から、多世代型施設よりも高齢者専用（優先）施設を望む意見も多くあり、再編の取組を進めるに当たっては、様々な利用者の意見があることを踏まえ対応していく必要がある。

視点２　利用者以外から見たゆうゆう館はどのようのものか

○高齢者の多くは健康状態が良く、60 歳代は多くの人が就労しているほか、70～80 代になっても、スポーツ・運動や趣味の活動、学習・教養活動やボランティアなど、様々な活動を行っている。

○高齢者の区立施設の利用に関するアンケートの結果（問５）ゆうゆう館で活動している高齢者は全体の 16.5％であり、区民集会所・区民会館や体育館、図書館などの区立施設や、カフェやスポーツジムなどの民間施設を利用するなど、活動内容に応じて活動場所も多様化している。

○一方で、趣味等の活動を行っていない高齢者の割合も高く、今後の高齢化の進展に伴い、単身高齢者の増加が見込まれる中、家庭（第一の居場所）でも職場（第二の居場所）でもない居場所（第三の居場所）を適切に確保していく必要がある。

視点３　協働事業が高齢者にとってどのようなものか

○協働事業は、運営事業者の創意工夫のもと、高齢者の「いきがい学び」「ふれあい交流」「健康づくり」の目的に沿った事業を行っており、利用者のニーズに合った事業の展開が図られている。

○協働事業の内容や講師の決定に当たっては、町会・自治会や学校、ケア 24 などの地域のネットワークを活用しており、地域コミュニティの形成につながっていることが確認できた。

○協働事業の実施に当たっては、事業参加に年齢制限を設けず、夜間枠の活用などを行っているが、館によって実施状況に差があることから、一層の世代間交流を促進する観点からも工夫していく必要がある。

視点４　これまでの再編整備の進め方はどうだったのか

〇これまでのゆうゆう館の再編整備の進め方について、説明が十分で無いことに加え、利用者の意見を聴く取組が不十分であるという意見や、計画が決定した段階ではなく、検討の段階や計画の立案の段階から意見を聞いて欲しいという意見が多くあったことから、今後の進め方においてはこれらの点を踏まえて対応していく必要がある。

〇施設利用者との間で、利用施設の老朽化や保育園などの併設施設があることなど、建て替えに当たっての課題を示して意見交換を行ったところ、計画が決まっていない段階でこのような意見交換ができたことは良かったとの声が多くあったことから、課題を共有する段階から対話を重ねることの重要性を改めて認識した。

検証項目２　ゆうゆう館の機能がコミュニティふらっとに継承されているか

視点１　ゆうゆう館で行っていた活動が引き続き行えているか

〇ゆうゆう館の４つの機能・役割について、一定程度機能継承ができている状況と言える。

〇ゆうゆう館で活動していた高齢者団体は、概ねコミュニティふらっとに移行し、引き続き活動しているものの、場所が変わったケースでは、距離が遠くなったことで活動をやめた実態も確認された。

〇コミュニティふらっとへ移行するに当たり、「同じ頻度や内容で活動できるか」などの不安を抱えている利用者が多かったが、移行後もこれまでと同じ頻度・内容で活動できているとの回答も多く、概ねゆうゆう館と同様に活動できていることも確認することができた。

〇今後は、ゆうゆう館にはあった温かな雰囲気が足りないことやラウンジの居心地が良くないなどの声があること等を踏まえ、より充実した高齢者の居場所として機能する施設となるよう運営方法等を見直し・改善していく必要がある。

＜まとめ（地域コミュニティ施設、ゆうゆう館再編）＞

○区では、この間、区立施設再編整備計画に基づき、ゆうゆう館をコミュニティふらっとへと段階的に機能継承する取組を進めてきた。今回の検証により、計画の目的や機能継承の取組について、区民から一定の理解が得られていることや、高齢者団体の 85.7%が引き続きコミュニティふらっとで活動を継続していることなどから、概ね機能が継承されていることが分かった。一方で、コミュニティふらっとについては、多世代交流については更なる工夫が必要であることや、どのような施設を目指しているのか分からないなど、様々な課題や改善点も明らかになった。

○また、コミュニティふらっとの設置目的である、「身近な地域におけるコミュニティの形成」を通して、核家族化や単身世帯の増加、地域コミュニティの希薄化などを背景とした社会的孤立を防止するとともに、年齢や分野を超えて人と人とがつながることで、住民一人ひとりの暮らしや生きがい、誰もが安心して住みやすい地域を共に創っていく「地域共生社会」を実現することは、大変重要である。この「地域共生社会」の実現に向けて、多世代が地域におけるつながり作りや活動を行うための場や機会を確保・充実することは、今回の検証を通して概ね共通認識が得られていることを確認することができた。

○2040 年問題を視野に、今後も更なる少子高齢化が進展し、高齢者数が増加していく中で、その多くは元気な高齢者であると見込まれる。その一方で、高齢者世帯、とりわけ単身高齢者世帯が増加することとなり、これらの方々の孤立防止は大きな課題である。そのため、高齢者が居心地の良い場所として過ごせる、家庭（第一の居場所）や職場（第二の居場所）とは異なる居場所（第三の居場所）を適切に確保することは、介護予防・健康増進に加え、孤立防止の観点からも大変重要である。この間、ゆうゆう館は、そのような役割を担う施設の一つとして機能しており、コミュニティふらっとについても、高齢者も含めた多世代が気軽に集える居場所としての機能を持つ施設となるよう取組を進めてきたところである。

○一方で、これまでの進め方においては、施設利用者への周知や意見を聴く取組が不十分であり、新たな地域コミュニティ施設であるコミュニティふらっとに対する十分な理解が得られていないまま取組を進めてきたことにより、高齢者をはじめとする施設利用者等の納得を得られていないことから不安や不満の声が寄せられてきた。このため、今後は、これまで以上に利用者の視点に立った施設づくりを進めるとともに、既に開設しているコミュニティふらっとについても、運用面をはじめ、様々な意見を頂いたことから、今回の検証で判明した課題を運営事業者とも共有しつつ、より一層、「地域共生社会」の実現に資する施設となるよう、施設利用者や運営事業者と連携して施設づくりに取り組んでいくべきである。

○これらのことから、今後の施設整備に当たっては、利用者や地域住民と、地域や対象施設等の課題を共有し、対話を重ねながら住民自治の視点に立って計画づくりを進めていく必要がある。その際、当該施設がゆうゆう館であれば、高齢者にとっての第三の居場所の必要性や地域共生社会づくりの視点から議論を尽くし、バランスの取れた解決策につなげていくことが大切である。